

病院や薬局からもらった薬は自宅でどのように保管していますか。薬を保管する上で注意していただきたいのが、「温度」「湿度」「光」の三つの要素です。

まず「温度」ですが、錠剤、散剤、カプセル剤などの飲み薬は、室温（1～30度）での保存が可能です。一方、坐薬や一部の点眼薬など、冷所（1～15度）保存の指示がある場合は、冷蔵庫で保管します。薬は凍ってしまうと効果が弱まってしまうものもあるので、冷凍庫には入れないよう注意してください。

次に「湿度」ですが、薬は湿度が高いと吸湿により変質して効果が弱まってしまうます。高温、多湿になる梅雨時などは特に注意が必要です。薬は、乾燥剤とともにチャック付きポリ袋に入れた上で、フタの閉

ちよつと得する
クエリ
の
知
識

91

「温度」「湿度」「光」に注意

まる缶や箱に保管し、できるだけ涼しい場所に置くようにしてください。

最後に「光」ですが、薬は直射日光のような強い光に当たると分解しやすくなります。特に「遮光保存」の注意書きのある薬は弱い室内光でも分解しやすいため、光の当たらない暗所に保管する必要があります。点眼薬で遮光袋が付いているものは、遮光袋に入れてから保管するようにしてください。

その他、インスリン注射薬は未使用のものは冷所保存ですが、使用開始後は結露を防ぐために室温で保存します。また、一包化された薬はPTPシートで包装された薬

よりも湿度や光の影響を受けやすいので、保存には注意が必要です。

薬は誤飲を防ぐため、小児や乳幼児の目に触れない所、手の届かない所に保管してください。そして、薬を服用後にそのまま放置しないよう気を付けてください。残薬など長期に保管している薬は自己判断で服用せずに、服用可能かどうかを医師やかかりつけ薬剤師に相談することをおすすめします。

（伊藤邦彦・県薬剤師会常務理事、県立大薬学部教授）

<次回は11月24日に掲載>